



稲高だより

静岡県立稲取高等学校

令和4年3月18日

第12号（通算142号）

まこと いつくしみ つとめる
「誠 愛 力」

令和3年度3学期終業式

3月18日(金)に、3学期終業式が行われました。

この日で、令和3年度の全日程が終了しました。生徒の頑張りに加えて、保護者の皆様のご理解とご協力、地域の方々、地元企業・団体等からの多くのご支援・応援をいただき、実りある1年となりました。本当にありがとうございました。

した。

終業式後には、クラス最後のLHRを行いました。LHRでは、担任より通知表が配布され、1年間の総括を行いました。それぞれの生徒が、この1年間の成長を振り返り、4月から始まる新しい学年の目標を設定しました。

1年間で振り返って 22HR 山口 愛莉（稲生沢中）

私は勉強とバレー（部活動）の両立を1年間がんばりました。勉強は授業をしっかり聞くことを意識し、分からないところは積極的に質問しました。他にも、朝読書の時間に少しずつ学習するようにしました。その結果、いい成績を維持することができたことは、この1年間の成果の一つです。

バレーでは、日々の練習を一つひとつ大切にすることと、精神面を強くすることを目標に頑張りました。

練習では苦手を克服するために自主練を増やしたりしました。自分なりに、積極的に練習することができたと思います。これを続けて、もっともっとうまくなれるように頑張りたいです。

精神面を強くするという目標は、まだまだ課題が残っています。プレーがうまくいかないときには、暗くなってしまい、部員や顧問の先生に迷惑をかけてしまうこともありました。それが克服できるように、自分なりの平常心の保ち方を探していきたいと思っています。これからも引き続き、強い気持ちが持てるように努力します。

4月から3年生になります。最後のインターハイではいい結果を残したいです。学習面でもよい成績を維持できるように頑張りたいです。

1年間で振り返って 13HR 稲葉 花音（河津中）

私は、稲取高校に入学して、部活動も勉強もしっかり取り組むようになりました。このことが、この1年間の最も大きな成長だと思います。

私は中学生の頃、勉強することが苦手でした。授業でわからなくてもそのままにしていた、テスト前でもあまり勉強はしていませんでした。ですが高校生になってからは、課題などにも真剣に取り組むことができるようになりました。定期テストの得点も少しずつ上がっていききました。

部活の面でも、女子バレー部は練習の密度が濃く大変でしたが、それを乗り越えることができました。中学生のときよりも、いろいろな面で成長することができました。部活動に取り組んだ成果として、時間の使い方がしっかりしてきたと思います。部活の練習で忙しいからこそ、より有効的に時間を活用するようになりました。

この1年自分なりに成長できたと感じています。このことを生かして、2年生になっても勉強と部活を両立し充実した高校生活にしたいです。

雛のつるし飾り

今年度より、稲取高校被服食物部が東伊豆町の伝統工芸・伝統文化である「雛のつるし飾り」づくりの活動をはじめました。雛のつるし飾りの普及・制作活動を行っている稲取の絹の会の方に指導を仰ぎ、つるし雛づくりを行っています。

その活動は徐々に広がりを見せています。JR東日本主催「さくら*うめ 花めぐり」において、JR小田原駅で展示された雛のつるしかざりが、JR横浜駅に3月末までに展示されています。



3月～4月の主な予定

- 3月30日(水) 離任式
- 4月7日(木) 始業式
- 4月8日(金) 入学式（新2、3年生は家庭学習日）
- 4月11日(月) 対面式、部活動紹介

令和3年度卒業証書授与式

3月1日(火)令和3年度卒業式が行われました。この日に、男子38名、女子31名、合計69名の生徒が稲取高校より卒業していきました。

（校長式辞 一部省略）

平成から令和に変わり、新たな時代への希望とともに始まった皆さんの高校生活は、新型コロナウイルスの影響を受け、例年と全く異なるものとなってしまいました。授業、学校行事、部活動等、多くの活動が中止や変更を余儀なくされ、たくさんの制限を受ける中、皆さんは屈託のない明るさと優しさ、ここぞという時に発揮される団結力で乗り越えてくれました。当たり前前の日常に感謝し、悔しさや悲しみをこらえながら、仲間とともに困難に立ち向かう皆さんの姿は、後輩の模範となり、地域を元気づけてくれました。

3年間で振り返り、今、入学前の自分に声をかけるとしたら、どんな言葉が浮かびますか？「つらいこともあるけど、周囲の人たちが支えてくれる。それ以上に、大切な仲間たちと楽しい思い出をたくさん作れるから心配いらないよ。」このように思えるのであれば、高校生活のすべてが「経験」という貴重な財産となり、皆さんを必ず支えてくれると信じています。

これから皆さんが進んでいく社会は予測不可能で、激しく変化すると言われています。また、コロナ禍が終息したとしても、国内外で起こる問題がなくなるわけではありません。4月から成人年齢が18歳に引き下げられ、皆さんには、課題解決のための即戦力となることが求められます。

「楽しいかどうかではなく、正しいかどうかで行動しなさい。」これは、大谷翔平選手が高校の恩師から教えられ、大切にしている言葉です。プロ野球選手という夢を叶えるために、技術だけでなく、「ゴミを拾う、道具を大切にする、審判への礼儀」等、野球以外の生活も大切にしていたことは良く知られています。



驚くべきは、アメリカで活躍する今なお、試合中にグラウンドのゴミを拾う姿が見られることです。時代や国を越え、大谷選手が高い賞賛を受けているのは、投打の二刀流という規格外の能力や技術だけではなく、自分を正しくコントロールする優れた人間性を持ち合わせているからです。

大切なことは、目先のことに惑わされ、安易な道に逃げることなく、「何をすべきか、何ができるか」を考え、正しく行動できる力であり、学年目標として掲げた「自律」の力です。熱い志を持ち、美しい人間力を磨き、正しい道を求めて進み、誰からも愛される人になってほしいと思います。

そして、心に留めてほしいのは、故郷の美しい海、広大な草原、色とりどりの花々、人々の温かさ。育ててくれた保護者の方々や地域の人たちへの感謝の気持ちを忘れず、故郷の今と未来に関わりを持ち続けてください。

結びにあたり、本日御臨席を賜りました御来賓の方々、保護者の皆さまに、改めて感謝申し上げます。そして、卒業生一人一人の今後の活躍を祈念しております。

静岡県立稲取高等学校長 三枝 美保子

●皆勤賞

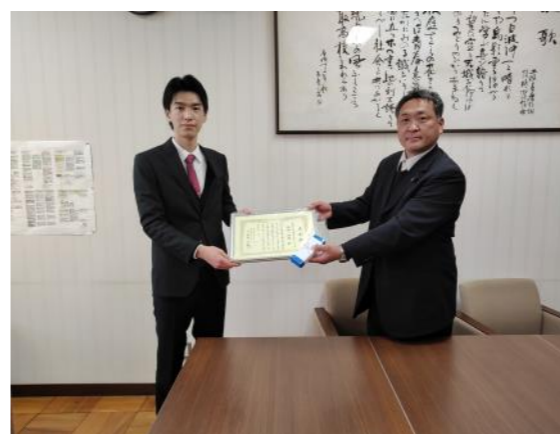
日吉 佳（熱川中学校） 増山 愛菜（南伊豆東中学校）
森永 梨世（熱川中学校）

●卒業証書授与クラス代表

江黒 七海（対島中学校） 高野 光（下田中学校）
野田 光平（稲取中学校）

●同窓会学年代表

樋口 あきほ（河津中学校） 萩原 紫桜（下田中学校）
山本 大翔（稲取中学校）



ボランティア部表彰

ボランティア部3年生は、保育園や小学校での活動や、様々な地域行事の補助など、地元にも根付いた活動を地道に続けてきました。東伊豆町ライオンズクラブが、この3年間の活動実績を評し、ボランティア部3年生を表彰しました。表彰状と記念品は、卒業式前日に、学校長より渡されました。